

目 次

P.1 味読の階段
P.2-4 児童文学講演会
絵本と鳥の巣のふしぎ
-鳥の巣が教えてくれること-
P.5-6 子どもたちに
本の楽しさを!
~図書館児童サービス奮闘記~

復刊

ハザミ



味読の階段

片岡 直子

人に本を勧めることは、とても少ない。

音楽もそうだけれど、子供には、自分の趣味を伝えることを、あまりせずにきた。

書評の連載を依頼された時、戸惑いがあつたけれど、新聞も雑誌も書評紙も、Web 書店のレビューにしても、大人は読みたくなければ読まない自由がある、と腹をくくり、十六年間、担当をした。

Web 書店の単行本は、一週間に一冊、新聞の夕刊の文庫は一ヶ月に四冊など。愛読した作家やジャンルの本だけが発行されるわけではないので、過去作品など、図書館にて、できるだけ手にしてみた。貸出冊数の関係で、慌てることもあれば、紹介する四冊目が決まらずに、煩悶することもある。

翻つて、この頃、自宅の書棚から出したりしまつたり、するめ?のような読みをしている一群がある。息子の出産の際、絵本と一緒にセットで買った、六十巻までの

『日本の名随筆』（作品社）。知り合いの編集者さんが関わっていたことも、最近知った。

未明に起きて数時間作業をし、ひと眠りする前に、心の流れで手にした巻を、少し読む。寝入るための読書は、文字に吸い込まれるように、一字一句を反芻する。

それは、たとえば講座や文学散歩の準備で、研究対象として読む時や、好きな作家にのめり込んで読むのとも異なり、心に、とらわれが無い。苦手な文章ならパスをするし、しつくりきた時ほど、上手に眠らせてくれたりもする。そのほどほどが、このシリーズに漂っている。十数分眠って起き、出会えた文章からまた、図書館で関連する本を借り、そこから、心の旅が始まることもある。

「音」「墨」「宙」など、それぞれの随筆から、受け止められる内容の範囲も、年々広く深くなる。本をあまりに好きだと、好みが強くなり、世界が狭くなる気がした時期もあつたけれど、今はそれを

越え、「味読」の階段を上って、下つて。

それは書評の季節を過ごしたせいも、あるのかもしれない。当時にしても、転がすように本を撰取して送稿した後の、ふわっとした時間は、本に囲まれた図書館で過ごしたのだけれど、それが、しばらく続く心地? 階段は、ひよつとして、本や文字からも離陸する世界へ繋がっているだろうか。そんな風景も、眺めてみたい。

片岡 直子 氏

1961年、入間市生まれの射手座。高校は川越、所沢市在住。

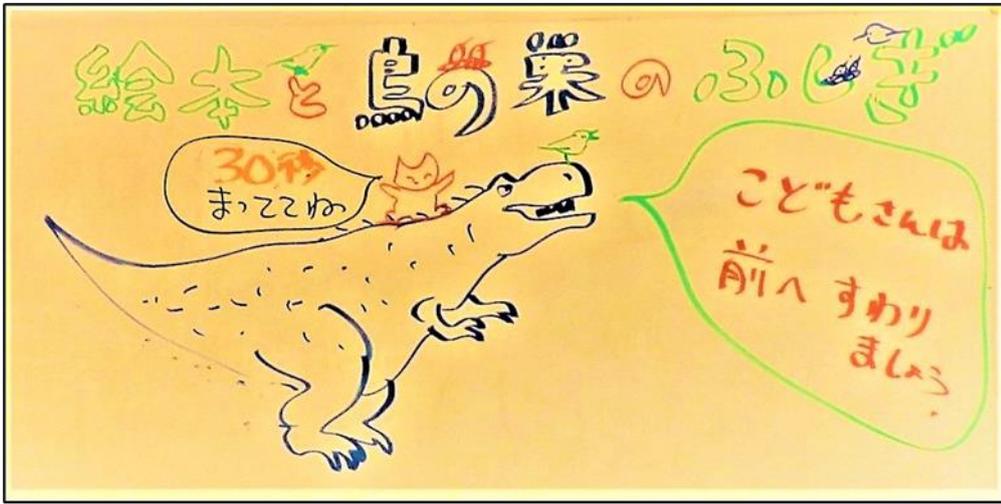
詩集に『産後思春期症候群』『素敵なともたち』『なにしくてても』（以上、書肆山田）、『晩熟』『曖昧母音』（以上、思潮社）。
エッセイ集に『ことしのなつやすみ』（港の人）、『おひさまのかぞえかた』（書肆山田）。
詩の授業、エッセイや文学散歩の講座など。

所沢図書館 児童文学講演会

「絵本と鳥の巣のふしぎ―鳥の巣が教えてくれること―」

講師 鈴木まもる氏

令和6年8月4日(日) 会場 所沢市役所 8階大会議室



●はじめに

僕は絵本を描いています。なにげない日常のうれしい話や、日常ではありえないような話の絵本を描くこともあります。いろいろな生き方があることを伝えたいからです。だから絵の表現もいろいろです。

今までいた、お母さんのお腹の中と一番近いところで絵本を読んでもらうことは、この世界に産まれたことへの安心感につながり、これから生きていく世界の入り口になるものだと思います。だから夢とロマンのある絵本を描きたいと思っています。

●鳥の巣博士鈴木まもるの誕生

鳥の巣にはたくさんの不思議があります。一番の不思議は絵本作家が鳥の巣の第一人者になってしまったということです。

鳥の巣って鳥の家ではありません。ヒナ

が巣立つともう使いません。たいいてい雨風で壊れますので卵を産む度に作り直す。

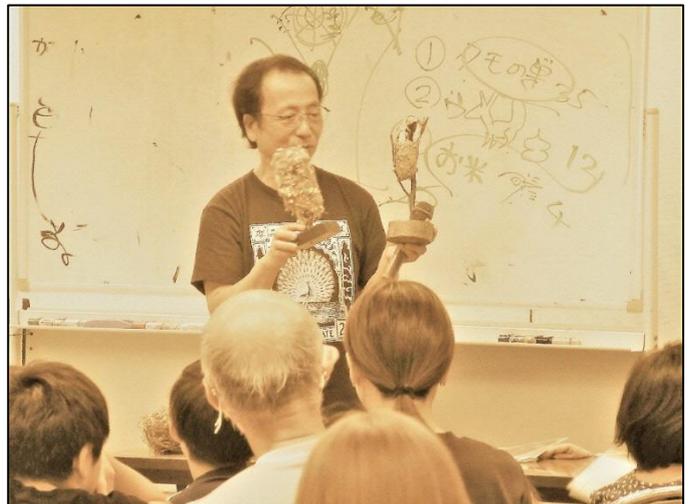
僕は偶然、山の中で鳥の巣をみつけ、その造形美に魅かれ色々な鳥の巣を集めるようになりました。でも何の鳥の巣か分からない。そこで図書館に行き探しました。鳥の本はたくさんあるのに、鳥の巣について書かれた本がないのです。何十万冊もある図書館で、鳥が産まれる一番大事なものが書いてある本がないのはなぜだろうということ調べてようになりました。

●鳥の巣の誕生

鳥の巣を知るために、恐竜を調べました。約2億年前には地上に恐竜しかいませんでした。その中で羽毛恐竜が出てきて、羽ばたけるようになり生き残った者が鳥へと進化したといわれています。卵とヒナは栄養が豊かなので、ほかの恐竜に襲われます。見つからないようなやぶの中に卵を産むようになったのです。こうして水辺や木の上、穴の中など、いろいろな場所に安全な空間(鳥の巣)を作るようになったのです。

●巣の作り方

鳥はどうやって巣を作りますか。鳥は自分を中心にしてクルクル回って物を集めます。なぜかという、例えばコチドリという地面に巣を作る鳥がいます。卵は丸いので地面に産むと転がってしまいます。そこで親は転がらないように石を置きます。これで卵は安全でしょうか。石を置いていない箇所から蛇が来るかもしれません。そこでまた石を置きます。回りながら石を置いていく



ので、結果的に石は丸く並びました。コチドリはようやく安心して卵を産みます。並べられた石は産む卵と同じ模様で、卵がどこにあるか分からないようになっていきます。ヒナも石みたいな模様をしているので、どこにいるのか分かりません。ヒナにとって一番安全な空間が出来あがったのです。

鳥によっては上からも攻められるかもしれないと球体の巣を作ります。安心感の違いで巣の素材や形が違ってきます。でも卵とヒナを守ろうという気持ちはみんな同じです。

●巣箱について

冬の間、鳥が庭に来るように巣箱を作る人がいます。ですが、ただ立派な巣箱を作っても全ての鳥が入るわけではありません。それぞれの鳥にとって安心する場所は違ってからです。太い木のウロが好きで、穴の中にコケ等を入れて卵を産む鳥がいます。こういう太い木が住宅開発で失われてしまったので、人間が代わりに細い木に巣箱をつけると太い木の穴の中に巣を作っていた鳥が巣を作るのです。シジュウ

カラとかヤマガラがそうです。巣箱を設置すればどんな鳥でも入ると思っている人がいますが、そうではなく、穴の中に巣をつくる鳥に巣作りする場所を提供するのが巣箱なのです。



●外国の鳥の巣

ツバメのように外国から日本に巣作りのために来る鳥もいます。でも一方で、絶対に来ない鳥もいます。調べると外国にも色々な巣があることが分かったので、外国に見に行くようになりまし

【ハタオリドリ】

アフリカのハタオリドリが住

んでいる土地は、サルが多く生息しています。木の幹のそばに巣を作っているとサルに全部食べられてしまうので、サルが来られないような細い枝先に巣を作りたくなつたのです。だからヤシなどの葉の繊維を編んでカゴのような巣を作るようになったのです。鳥の種類によってメスが巣を作ったり、オスが巣を作ったりと違うのですが、ハタオリドリの場合はオスです。オスが巣を作っている最中にメスは様子を見に来ます。巣の作りが甘いと卵に危険があるので、巣作りがうまいか下手かで旦那さんを決めるのです。

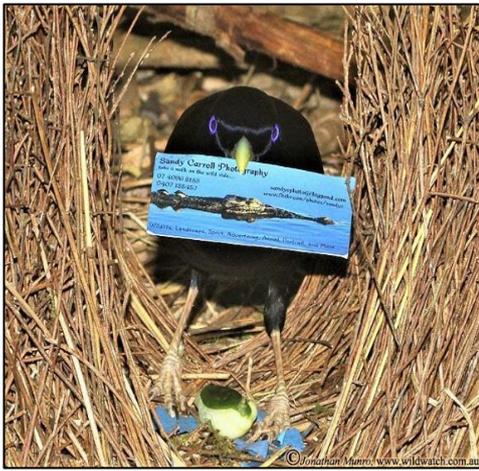
【ニワシドリ】

オーストラリアとニューギニアに住むニワシドリは巣ではなく「あずまや」を作る変わった鳥です。オオニワシドリのあずまやはたくさんの卵が丸見えです。でも実はこれ、カタツムリの殻や骨なのです。これはオスが「僕と結婚して巣作りすると巣からあふれる位卵が埋めますよ!!」と伝えているんじゃないでしょうか。



【オオニワシドリの「あずまや」】

中央のドーナツ型の物体は細い枝を組み合わせで作られています。



【青い切符を拾ってきたアオアズマヤドリ】

【チャイロニワシドリ】

この鳥は密林の中の気になった場所をきれいに掃除します。木の実とか虫の羽とか苔とか、綺麗なものをいっぱい集めて、メスにプロポーズするのです。

オスは、「僕はこんなにこまめに色々な事が出来ます!!」と伝えたいのだと思うのです。

オオニワシドリは、地面を綺麗にして、「卵をいっぱい産めますよ。僕と巣作りしましょうよ!!」というメッセージを自分の代わりのもので伝えます。それが「あずまや」だと思うのです。安全なところに隠れていて、自分をアピールする。地球上には1万種鳥がいますが、「あずまや」を作るのはニワシドリだけです。

もう一種同じような事をするのは、人間だと思えます。人間も、プロポーズをするときにプレゼントを贈ったり、食事に誘ったり、自分の代わりとなるものを作ってアピールしています。



●終わりに

ここが絵本作家が鳥の巣の博士になった理由につながります。ある日偶然鳥の巣を見つけて、すごく好きになったんです。ただ、なんで好きなのか分からなかった。でもある日分かりました。僕は子どもたちが元気になるために絵本を作ってます。鳥はヒナが元気に育つように巣を作っています。形、やり方は全然違うけど、

小さな命が元気に生きるために「もの」を作っている。僕たちは同じことをしているんだと気が付きました。

人間が仕事をしているのは、お金を儲けるといふこともあるのでしようけど、子どもたちが元気に生きる事につながることでだと思ふのです。たとえば子どもが生きていくには、洋服が必要です。だから洋服を作る人も必要だし、洋服を運ぶ運転手も必要だし、色々な人の力が集まって洋服が流通できるのだと思うのです。

鳥のヒナは自分がどう生きてらよいか知っています。例えばウグイスはある時期になると巣を作って新しい命を産みます。本能的に自分がどう生きてらよいか知っているのです。人間の子どものもある時期になると外国に行く子もいるかもしれないし、ずっと所沢で暮らすことを選ぶ子もいるかもしれません。

子どもたちはちゃんと選ぶ力があると思えます。お父さんお母さんは子どもたちをあたたく見守って、その子がやりたいことを伸ばしてあげて欲しいと思えます。

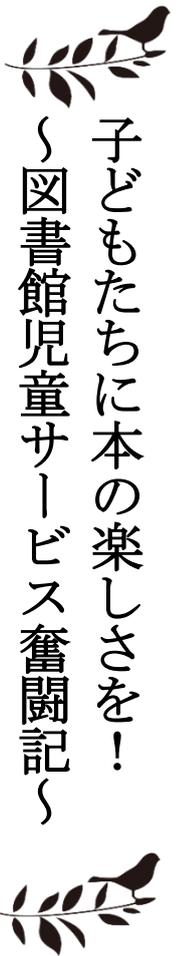
●自分で調べる

不思議だなと思つて調べると新しいことが分かります。それが分かるのとさらに知らないことがでてきます。そして世界は広がっていきます。新しい何かを調べるのは面白いことだと思ふのです。勉強して本当は面白いことなんです。自分が不思議だなと思つたことを自由に調べてみてください。

鈴木 まもる 氏

1952年東京生まれ。東京藝術大学美術学部工芸科中退。1986年より伊豆半島在住。画家・絵本作家。鳥の巣研究家。代表作に『あるヘラジカの物語』（あすなる書房）、『みんなあかちゃんだった』（小峰書店）、『火の鳥いのちの物語』（金の星社）、『ウミガメものがたり』（童心社）等がある。





子どもたちに本の楽しさを！ 図書館児童サービス奮闘記



◆はじめに◆

図書館という本を借りる場所というイメージをお持ちだと思いますが、ほかに「本と人をつなぐ」サービスを行っています。その中でも児童サービスは、子どもたちが読書活動を通じて言葉を学び、感性を磨き、人生をより深く生きていく力を身に付ける一助となるものです。

さて、令和6年度より「第4次所沢市子どもの読書活動推進計画」がスタートしたことから、今回は、図書館児童サービスの一部をご紹介します。

窓口サービス

子どもたちのあらゆる疑問や要望に応えられるよう、本を揃え提供しています。例えば、「アイスクリームが固まる仕組みを知りたい」という疑問に対して、その分野の本を紹介したり、「雪だるまが出てくる本を借りたい」という要望に対して、該当の本を紹介したりしています。

窓口サービスは、職員が子どもたちの生の声を聞くことができる貴重な機会となっています。

◆各種子ども向けイベント

◆おはなし会・かがくあそび◆

図書館では、多くの子どもが読書の楽しさを味わえるよう、また、知的好奇心を育むことができるよう、おはなし会等の子ども向けイベントを開催しています。

おはなし会は、ボランティアの方々にもご協力をいただき、絵本の読み聞かせやストーリーテリング（本を見ないで昔話などを語ること）等を行う会です。子どもたちが本の楽しさに出会うことができます。

親子おはなし会は、乳幼児とその保護者向けに、絵本の読み聞かせや手遊び、わらべうたなどを行い、本に親しみ、本を活用した子育てを提案する会で、保育士と協力して行っています。

かがくあそびは、実験や工作を行うことで、子どもの知的好奇心を育み、科学等の本に触れる機会を提供するものです。

さて、突然ですが、おはなし会がどのように開催されるか、気になりますか？ここで、おはなし会が開催されるまでをご案内します。



◆おはなし会が開催されるまで◆

1. プログラムを考える
まず、子どもの年齢にあった本を選びます。子どもの集中が途切れないように、長いおはなしと短いおはなしを組み合わせたリ、季節にあつたおはなしや手遊びなどを入れたり工夫します。

本を選ぶ際に気を付けている事

- ①長く読み継がれているもの。
- ②おはなしが丁寧に展開していくもの。
- ③自分が読んで面白いと思ったもの。
- ④ある程度の大きさがある本で、絵がよく見えるもの。
- ⑤絵と文のバランスがとれているもの。

2. 練習をする

絵本の読み聞かせは、まず子どもたちに伝えたいその絵本の持つ楽しさやよさを確認します。それから、絵本を安定させて持ち、絵をきちんと見せるようページのめくり方や絵を見せる時間、読むスピード等に留意して練習します。

ストーリーテリングは、声に出して何度も練習し、おはなしとその世界観を頭に入れて語れるようになります。お風呂の中や掃除をしながら、あるいは通勤途中等、それぞれの職員が工夫しながら覚えていきます。

3. リハーサルをする
プログラムの時間配分等や、滞りなく会が進むかを確認します。

4. 開催当日
子どもたちの様子を見ながら、プログラムを進めていきます。おはなし会が終わった後に、子どもたちが紹介した本を借りることができるよう、複数冊用意しておきます。

5. 開催後の振り返り
おはなし会での子どもたちの様子や自分たちの反省を記録しておく、技術等の向上を図るよう心がけています。

6. 図書館職員向けの研修への参加
本を選ぶ目を養うこと、読み聞かせの技術等を学ぶため、研修へ参加して自己研鑽をしています。研修で得た情報は職員間で共有し、ボランティアの方へ助言やアドバイスをするのにも役立っています。

児童サービス担当職員のある一日

- 8:30 朝礼・開館準備(魅力的な書架になるよう本の補充・整理)
- 9:30 開館・窓口サービス
- 10:00 おはなし会ボランティア勉強会(参加者への助言等)
- 11:30 休憩
- 12:30 事務作業等
- 13:20 病院院内学級での出張おはなし会
- 15:20 帰館・事務作業・窓口サービス等
- 17:00 閉館・閉館作業

★残業をすることも…。自宅では、児童書をたくさん読みます!

事務作業は、利用者の予約本の準備、学校へ貸し出す「調べ学習」の本の準備、新しい本の選書、イベントの企画、子ども向け広報紙の作成、統計作業等、様々な業務を行っています。

なお、図書館では、学校や地域で子どもと本をつなぐ大人の方へ向けて『グループ向け読み聞かせガイド』を発行し、配布しています。どんな絵本をどのように読んだらよいか悩んだ時にご覧いただけると幸いです。また、乳幼児向けブックリスト『赤ちゃんにえほんを』を発行し、配布していますのでご利用ください。

他機関へ訪問し実施するイベント

◆出張おはなし会◆

図書館へ来館が難しい子どもたちに向け、他機関へ働きかけ、図書館以外の会場へ出向き、おはなし会等を行っています。

こどもと福祉の未来館や児童館を会場として実施、また、病院の院内学級を訪問しておはなし会を行う等しています。市役所の他所属との連携事業を保健センターで実施する際も、図書館職員が出向いています。

子どもたちが来るのを待っているだけではないんだね!



学校との連携事業

◆学級訪問(ブックトーク)◆

市内の小中学校を訪問し、テーマに沿った本の紹介、図書館の利用案内を行うものです。「さあこまっただうしよう」等、子どもの興味を惹くようなテーマに沿った5冊の本を紹介し、紹介した本を含めたお薦めの本40冊を1か月間、そのクラスに貸し出します。

学級訪問は、市内の小中学校3学年全クラスで実施しています。他学年は希望に応じて訪問しています。

◆図書館見学◆

小中学生に対し、図書館職員が図書館の館内を案内し、利用案内やおはなし会等を行います。図書館を身近に感じて利用してもらうための取り組みです。本館の見学で一番盛り上がるのがおはなし会と、電気で棚が動く書庫。子どもたちの目が輝きます。一学年2〜4クラス来館するので、館内は賑やかになります。

◆ブックリスト◆

図書館職員が薦める小中学生向けのブックリスト『ほんがいつぱい!』を1年に1度発行しています。毎年、子どもたちに長く読み継がれている本や新刊本等100冊以上の本を読み、選定会議でそれぞれの本の評価を話し合い、お薦めの本を決定します。ブックリストは、夏休みの前に、市内小中学校全児童・生徒へ配布し、図書館ホームページにも掲載しています。

◆最後に◆

図書館から飛び出し、積極的に働きかけることで、子どもたちの読書活動が豊かになることを信じ、児童サービス担当職員は日々、奮闘しています。

編集発行：所沢市立所沢図書館 〒359-0042 所沢市並木1-13

ホームページアドレス パソコン <https://www.tokorozawa-library.jp/>

スマートフォン <https://www.tokorozawa-library.jp/opw/OPS/OPSINDEX.CSP>

電話 / FAX

電話 / FAX

本館 04-2995-6311 / 04-2992-1421
 所沢分館 04-2923-1243 / 04-2928-8195
 椿峰分館 04-2924-8041 / 04-2928-8148
 狭山ヶ丘分館 04-2949-1193 / 04-2949-8577
 松井小学校図書館 04-2992-2796 / 04-2992-2797

富岡分館 04-2943-3636 / 04-2943-6680
 吾妻分館 04-2924-0249 / 04-2928-8250
 柳瀬分館 04-2944-4023 / 04-2945-7236
 新所沢分館 04-2929-1905 / 04-2929-1906

2025年2月15日発行 復刊いずみ35号(通巻113号)